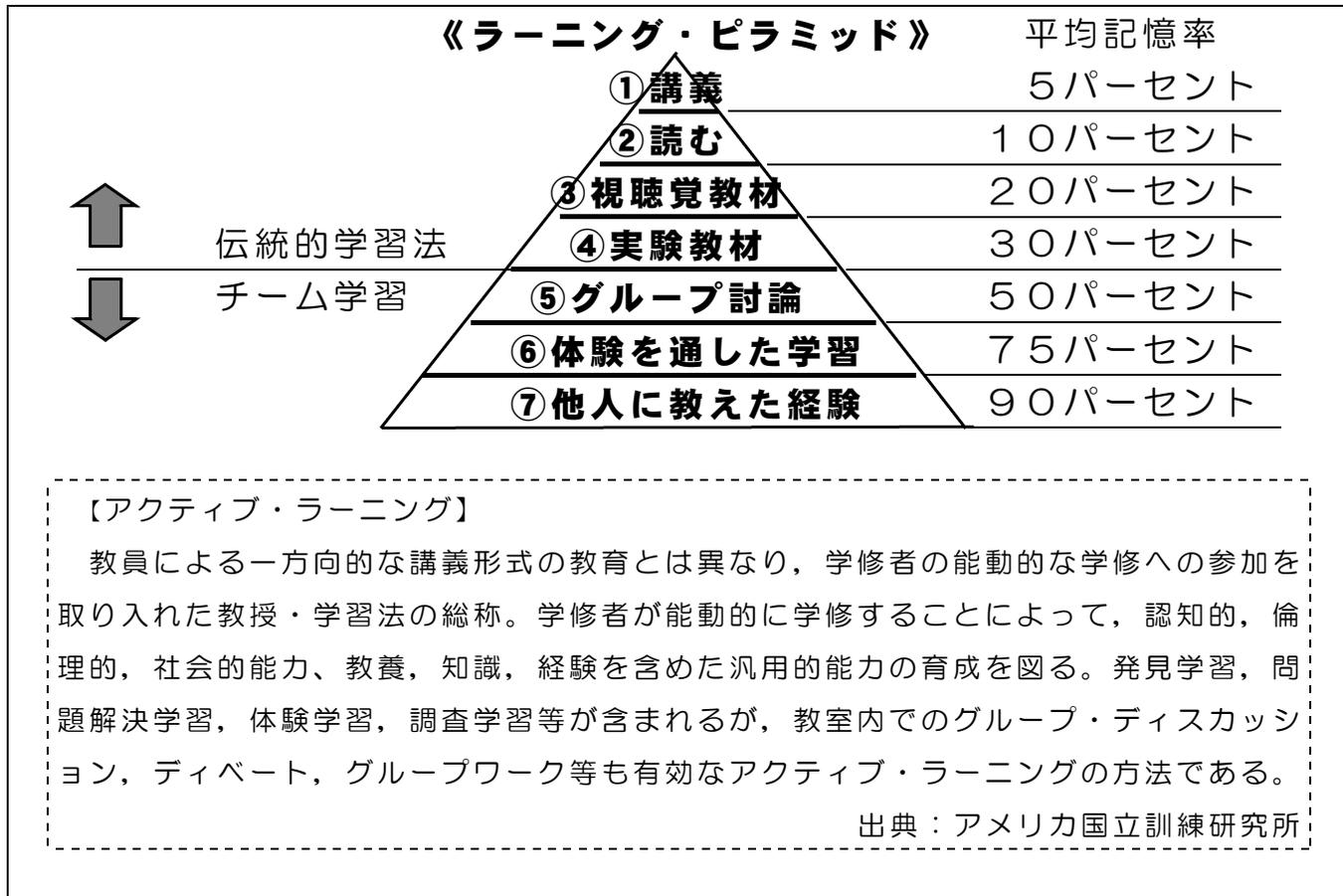




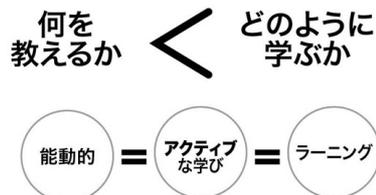
アクティブ・ラーニングと私の体験・・・・・・・・・・・・・・・・



少し前からこの言葉が話題になっていたので、ご存知の方もいらっしゃることでしょう。

私（わたくし）の体験をふり返って『なるほど』と納得し、そして反省の意味も込めて今月の記事として紹介します。

〔①講義〕は、高学年の社会科の授業で見られるパターン。教科書のページがたくさん残っていて、急いでそれを消化しないといけないときにしてしまいます。いくら先生の話が上手でも、子どもの記憶率はたったの5%…か。〔③視聴覚教材〕や〔⑤グループ討論〕をもっと取り入れればいいのか？



【裏面に続く】

No Image

〔④実験教材〕は、授業前の準備が肝心。もちろん材料や道具が十分にそろっていないければなりません。先生が前で実験して見せて終わりでは、子どもには身に付かないということです。この理科という教科は、すごく好きな先生と苦手な先生に分かれる傾向が見られます。好きな先生は、「子どもにルールを守らせ、準備をきちんとしておけば、あとは子どもたちが進

めてくれるから」と言っていました。

〔⑤グループ討論〕は、まずグループ内で子どもたちが討論にならない問題が発生します。また熱くなりすぎて口論になったり、ほんの一部の子どもだけが永遠にしゃべっていたりと。まあこれは、われわれ大人の世界でもありがちですが…。討論までもいかななくても、子どもたちに意見の交流をさせるためには、形だけ取り入れてもうまくいくはずがありません。

No Image

No Image

〔⑦他人に教えた経験〕は、クラス全員がまっすぐ前を向いて先生を見つめていては経験できません。席が隣同士、近く同志で教え合い学び合うことが大切で、授業で子どもを孤立させてはいけないと講演会で聞いたことを思い出しました。

担任した子どもたちが卒業し再会したとき、勉強したことで覚えていることを聞けばわかります。教師自身が好きな教科や熱心に教えた単元、研究授業で頑張った教材について、子どもの記憶と自分のそれが微妙にちがうことに驚くかもしれませんね。

.....